

<h1 style="font-size: 48px; margin: 0;">八 枝</h1> <p style="margin: 5px 0;">学力特集号</p>	<p>北九州市立八枝小学校</p> <p>文責 弥永 和利</p>	<p>【学校教育目標】 思いやりの心もち、自ら学び考える、 心身ともに健康な児童の育成</p>
--	-----------------------------------	--

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

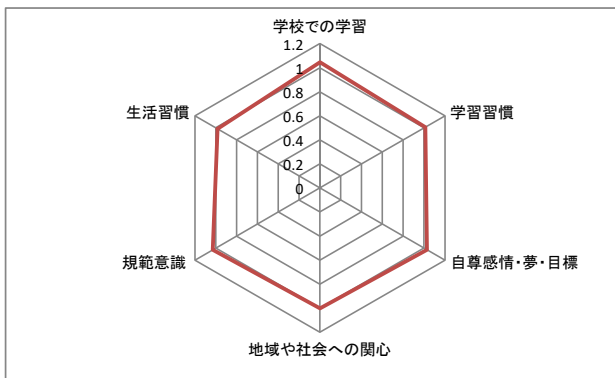
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に正答率が高く、無回答率が低い。ほとんどの設問で全国・県の正答率を上回っている。 ・ 主語述語の関係に注意して、正しい文に書き直す問題で、最も高い正答率を上げた。 ・ 「文章全体の構成の効果を考える問題」には課題がある。 	上回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に正答率が高く、無回答率が低い。多くの設問で全国・県の正答率を上回っている。 ・ 国Aとは異なり、文章全体の構成の効果を考える問題の正答率が高かった。 ・ 「相手の話」や「文章」から、目的や意図を読み取る力には課題がある。 	上回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に正答率が高く、無回答率が低い。多くの設問で全国・県の正答率を上回っている。 ・ 円周率の意味に関わる問題で、最も高い正答率を上げた。 ・ 「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表す問題」には課題がある。 	上回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に正答率が高く、無回答率が低い。半数の設問で全国・県の正答率を上回っている。 ・ 集まった角の和が360° になっていることを言葉や式を用いて記述する問題で、最も高い正答率を上げた。 ・ 「グラフの特徴を基に、複数の視点で考察したり表現したりすることができるかを問う問題」には課題がある。 	上回っている
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に正答率が高く、無回答率が低い。ほぼ全ての設問で全国・県の正答率を上回っている。 ・ 複数の情報を関連付けながら分析して考察できるかどうかをみる問題で、最も高い正答率を上げた。 ・ 「太陽の位置変化と光電池の電流の関係を、目的に合ったものづくりに適用できるかどうかの問題」には課題がある。 	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「家で自分で計画を立てて学習していますか。」 「学校の授業以外に、普段(月～金)1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。(1時間以上)」の項目で肯定的回答が多く、学習習慣がしっかりと身に付いていると考えられる。 ・ 「自分には、よいところがあると思いますか。」 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」の項目で肯定的回答が多く、自尊感情を高くもち、自分の将来について考えている児童が多いと考えられる。 ・ 「朝食を毎日食べていますか。」 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」の項目で肯定的回答率が低く、生活習慣の重要性について意識を高める必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・ 『『わかる授業』づくり5つのポイント』の、特に「4. 1単位時間の中に『話し合う活動』と『書く活動』を意識するよう、「授業改善シート」を日常的に活用し、授業力の向上を図る。

・ どの教科等においても話し合い活動を位置付けることを全職員が共通理解し、主体的で対話的な授業展開ができるよう工夫していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・ 本校児童はテレビゲームやスマホ使用の時間が全国と比較して多くなっている。そのため、就寝時間が不規則になっている可能性も考えられる。学級レベルでの指導からスタートし、食育も含め保護者へも懇談会やプリント等で周知していき、学校と保護者が連携を取り合いながら子どもを育てていくようにする。